

webifi マニュアル

1. はじめに

本文書は webifi のユーザーマニュアルです。

2. webifi について

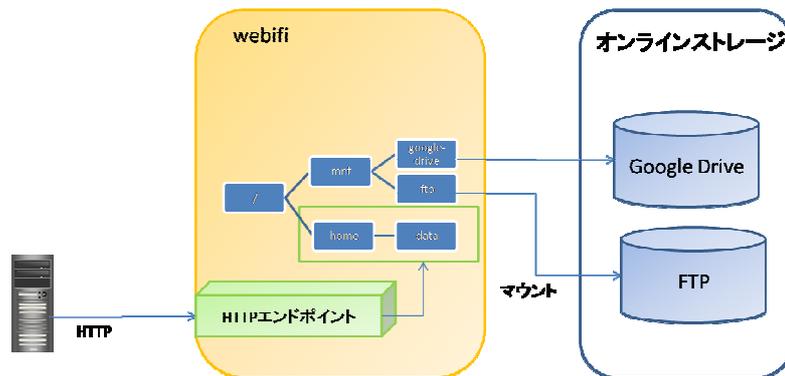


図 2.1 webifi の全体像

webifi は筆者が開発している web ベースのアプリケーションです。webifi は複数のオンラインストレージサービスを統合し、単一のファイルツリーを仮想的に構築することができます。また、構築した仮想ファイルツリーの部分木を取り出して、HTTP で再配信することもできます。

webifi は下記の URL で公開しています。

[webifi の URL]

<http://www.loxsols.com/pukiwiki/index.php?webifi>

3. webifi の使い方

3.1 ログイン

webifi へのログインは gmail アカウントを用いて行います。下記の画面の指示に従って、gmail アカウントと webifi の紐付けを行ってください。

[URL]

<http://www.loxsols-vps.com/tomcat/webifi/fileservice/googlelogin/GoogleLoginTop>



図 3.1 ログイン画面



図 3.2 GoogleID の認証処理結果画面

3.2 ストレージのマウント

webifi にストレージをマウントして仮想的なファイルツリーを構成するには、以下の手順を実行してください。

webifi のログイン後のトップページから、「メニュー」を選択。



図 3.3 webifi のログイン後トップ画面

メニュー画面で「ストレージを追加」を選択。



図 3.4 メニュー画面

「ストレージを追加」画面にて、追加するストレージの種類を選択します。今回

は GoogleDrive を用いて説明します。



図 3.5 ストレージの選択画面

Google 側のサーバーに遷移して、使用する GoogleDrive に紐付いたアカウントを選択する画面が表示されます。



図 3.6 google のアカウント選択画面

マウントポイントの設定を行います。マウントポイントは、仮想的なファイルツリーのどこにストレージをマウントするかを示すパス文字列です。今回は初期ディレクトリとして用意されている「/mnt/google-drive」を使用します。



図 3.7 マウントポイントの設定画面

その後、最終的な確認画面が表示されますので指示に従ってください。これで **Google Drive** を **webifi** にマウントすることが出来ました。

3.3 エンドポイントの作成

webifi の仮想ファイルツリーの全部、もしくは一部(部分木)を外部に公開することが出来ます。

今回は、**HTTP** エンドポイントを設定して、**Google Drive** 内のファイルをホスティングする例を示します。

webifi のメニュー画面を開き、「エンドポイントを追加」を選択します。



図 3.8 webifi のメニュー画面

追加するエンドポイントを選択する画面に遷移しますので、「HTTP」を選択してください。



図 3.9 追加するエンドポイントを選択画面

ドキュメントルートを指定する画面が表示されますので、先ほどマウントした Google Drive のマウントポイントを指定します。



図 3.10 追加する HTTP エンドポイントの設定画面

その後、確認画面が表示されますので、支持に従って進めてください。

設定が完了したエンドポイントの情報は以下の画面で見ることが出来ます。

「メニュー/エンドポイントの一覧」を選択してください。エンドポイントの一覧画面ではエンドポイントのアドレスを閲覧することが出来ます。



図 3.11 エンドポイントの一覧画面

4. 制限事項

- HTTP エンドポイントで配信できるファイルの最大サイズは 20MB までです。

5. 仕様

2017/07/07 現在の webifi の仕様を以下に記載します。

項目	仕様
マウント可能なストレージ	Google Drive, FTP
エンドポイントの種類	HTTP

6. その他

- エンドポイントの URL は今後の運用方針で変更する可能性があります。特に HTTP エンドポイントは 80 番ポートで運用できるようにホスト名/ポート番号ともに変更する可能性があります。